
社会分科会

I 研究のあゆみ

4月24日(木)	2025年度名教組教研オリエンテーション (2025年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
6月5日(木)	研究計画の検討	【教育館】
5月下旬～6月下旬	個別指導	
8月26日(火)	レポートの検討	【教育館】
9月20日(土)	第75回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウイंकあいち】

II 研究協議の概略

社会的事象が自分の生活と関わっていることに気付かせるために、普段食べているもの、身近にある図書館や駅等、自分の地域にあるものを教材として取り上げて追究したり、考えを深めたりする実践が報告された。また、子どもが追究してきたことを学級全体で共有したり、これからの社会について考えたりするという協働的な学びを意識した実践も多く報告された。

協議の中では、夢中になって学習に取り組むことができるようにするために、一人ひとりが学習のめあてをつかみ、追究していくことができるように教材化に取り組むことの大切さについて意見交流が行われた。また、自分事として考えることができる学習活動の工夫や、自分の考えを整理したり、深めたりするために学習シートや思考ツールをどのように活用していくとよいか等が話題となった。

III 今後に残された課題

- 社会的事象を自分事として捉えることができるよう、実際に出掛けたり、出会ったりする中で、子どもが疑問をもち、追究意欲を引き出すことができる教材化や学習活動を工夫すること。
- 子どもが主体的に追究活動に取り組むことができるように、学習問題や学習計画を設定し、一人ひとりが学習のめあてをつかむことができるように工夫すること。
- 社会が抱える課題を自分事として捉え、その解決について自分の考えを深めることができるようにするには、学習活動をどのように工夫するとよいかということ。